日刊工業新聞

年月日	21	06	15	ページ	05	NO.	

ほしい人材 × 育てる人材 ⑪

東京都市大学 キャリア支援センター部長
住田 暁弘 氏

東京都市大学では４年間を通じてキャリア支援をしている。インターンシップ（就業体験）など、学生が将来像を描きやすい環境作りをしている。キャリア支援センターの住田暁弘部長に話を聞いた。（飯田真美子）

―低学年と高学年で異なるキャリア支援をしています。

「低学年は対人能力などの『基礎・応用力』と達成欲求といった『職業的態度』のトレーニングをしている。大学３年生後半からは面接や筆記試験対応力などの『就職活動力』を高めるための課題を増やしている。三つの力を掛け合わせることで就職力が身に付くと考えている」

―独自のインターンシップが特徴的です。

就職につながる ３つの力養成

「１カ月以上の海外インターンシップがあり、自主的に動くことを重視している。参加者には事前の準備や課題があり、終了後は報告会での発表が求められる。2019年には73人の学生が体験し、自分に足りない力の発見や意識向上などにつながった。１日体験型インターンシップよりも教育効果が高い」

―説明会などのオンライン化が進みます。

「キャリア相談をオンライン化しており、申し込みが増えた。また、約275社の企業がオンライン説明会を行っている。学生が参加しやすくなったこともあり、現段階の４年生の内定率は20年度よりも５ポイント以上上がったことが内部の調査で分かった」

＊取材はオンラインで実施。写真は東京都市大学提供

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社